

きりゅう

市議会だより

平成12年5月15日

No.173

議長に川嶋伸行氏



平成12年第1回臨時会（4月25日）において、川嶋伸行氏が新議長に選出されました。

就任あいさつ

議長に当選させていただき、たいへん光栄に存じております。歴史のある桐生市議会の議長となり、その責任の重大さを感じております。昨年の統一選挙から1年、大澤市長のもと、当局と議会が一丸となって、元気の出るまちづくりに努力してきたと思っておりますが、議会の中の体制が本当にそれに沿ったものであったかという点、一抹の疑念が残るところであります。今後、そういったことを打開するために、微力ながら努力していきたいと考えております。議員諸公のご協力をお願いして、就任のあいさつといたします。

平成12年第1回定例会は、3月2日に招集され、22日までの21日間の会期で開かれました。この定例会では、市長提出議案58件、議員提出議案1件の審議を行い、それぞれ原案のとおり可決しました。

主な掲載記事

一般質問を17議員が行う.....	2～6
平成12年度予算を可決.....	7
行政連絡所設置条例を可決.....	8
文化センターの設置及び管理条例を廃止...	8
請願・陳情の審査結果.....	8
人事案件1件に同意.....	8

一般質問

3月21日、22日の2日間にわたり、17人の議員が一般質問を行い、市政全般にわたる問題について、市当局の見解を求めました。

なお、この定例会から、一般質問について1議員当たりの持ち時間を答弁を含めて40分以内としました。
(従来は30分以内)

質問者

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 笠井 秋夫
(政友会) | 下田 文男
(フォーラム桐生) |
| 岡部 純朗
(市政クラブ) | 佐藤 貞雄
(日本共産党) |
| 森下 清秀
(政友会) | 石井 秀子
(桐愛会) |
| 小滝 芳江
(フォーラム桐生) | 園田 恵三
(フォーラム桐生) |
| 関口 直久
(日本共産党) | 岡部 信一郎
(市政クラブ) |
| 西牧 秀乗
(政友会) | 中田 米蔵
(日本共産党) |
| 蛭間 利雄
(市政クラブ) | 鈴木 輝且
(公明党) |
| 阿久津 成璋
(政友会) | 大澤 幸一
(フォーラム桐生) |
| 寺口 正宣
(公明党) | |

消防団の歳末警戒

質問 消防団の歳末警戒は、毎年十一月二十五日から三十一日まで、七日間の日程で行われているが、時代の流れは家族中心になっており、年間行事が多く、さらに歳末警戒が七日間もあつては、消防団に入る気にならない。市当局が中心となり、広域圏町村と同様に、三日間程に変更すべきではないか。

答弁 消防団の年間行事日数等が多いことは事実であり、考えるべきで

あると認識している。今後、歳末警戒の日程等を前向きに検討していきたい。

水道水へのフッ素添加

質問 世界保健機関(WHO)は、虫歯予防に有効として、水道水への適量のフッ素添加を勧告しており、五十余りの国々が実施している。日本でも歯科医学会の検討部会が提言しているが、桐生市としては、今後どのように取り組む考えなのか。

答弁 水道水に機能飲料の役割を持たせることには議論がある。国にもまだ動きがなく、フッ素添加している自治体はない。水道水という観点から国の動向等注意していきたい。



安全でおいしい水をつくる浄水場

桐生川の清流

質問 桐生川の清流は、桐生市にとって大切な資源であるが、清流を守るためには、水と緑は相互関係にあることから、桐生川流域の山の樹木の種類についても考えるべきである。針葉樹だけでなく、自然のダムの役目を果たす広葉樹を植林して増やすべきではないか。

答弁 たくさん水を蓄える広葉樹の重要性は、十分に理解している。清流を守るためには、広葉

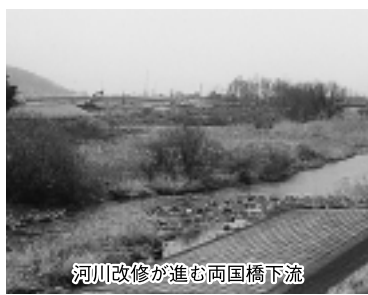
樹を中心とした植林が必要と考えており、積極的に取り組んでいきたい。

桐生川下流域河川改修

質問 桐生川下流域の河川改修は、どのような計画になっているのか。また、白髭橋下の雨水幹線の接続に支障はないか。

答弁 建設省によると、濁沼地区の河道付替えによる築堤工事を十二年度に完成させ、十三年度は新たな河道に切替えを行い、

その後、JR鉄橋と境橋の区間と、両国橋に至る堤防改修を計画しているという。白髭排水樋管の流末は、新河道に接続し、排水処理に支障がないよう対処する。



河川改修が進む両国橋下流

桐生川整備構想

質問 平成二年に策定された桐生川整備構想は、豊かな自然を保全し、環境特性を生かしたまちづくりを目指す素晴らしい構想であるが、これまで、どのような事業を行ってきたのか。また、特に豊かな自然が残る桐生川の上流、源流部をどう考えているか。

答弁 国、県とも連携し、下流部の濁沼地区、中流部の小松橋付近で、親水性護岸や遊歩道等を設置し、憩いと安らぎを提供できると考えている。

きる川づくりを行っている上流、源流部は、豊かな自然環境に恵まれた、貴重な財産であり、今後の整備では、特に自然環境等への配慮が重要と考えている。



整備が進む間ノ島団地

高齢者対応住宅

質問 桐生市の高齢化率は、県内十一市で最も高く、今後、高齢者対応の住宅が、市民から強く求められると考えるがどうか。

答弁 高齢者向け住宅は、間ノ島団地第四期工事で十六戸を建設しており、第六期、第七期工事で十二戸を予定している。今後も高齢化社会に対応する住宅政策を計画的に進めていきたいと考えている。

市民活動サポートセンター

質問 市民活動団体の活動拠点として、市民活動サポートセンターの設置を提案したい。全国ではNPOが行政から委託を受けて、情報サロン、セミナーホール等を常設したサポートセンターを運営しているまちもある。桐生市がボランティア都市を標榜するのであれば、サポートセンターが必要ではないか。

答弁 ボランティア等の活動分野は多岐にわたるため、活動範囲を広くとらえ、効果的な活動ができる拠点を確保することは重要と考えており、今後研究を重ね、早い時期の設置を目指したい。

病児保育

質問 病気回復期の乳幼児の保育を行う乳幼児健康支援サービスセンターを桐生厚生総合病院に設置し、病児保育を行うことについてどう考えるか。

答弁 病児保育は、現在策定中の児童育成計画の中で、子育てと仕事の両立支援策の一つとして積極的に取り組まなければならない事業と考えており、関係機関と協議をし、実施に向けて研究していきたい。



桐生厚生総合病院

介護保険制度

質問 介護保険制度は、もうすぐ四月一日からスタートするが、ケアプランの作成等は、実施に向けて間に合う状況なのか。

答弁 手続きがわからず、にサービスが受けられないというところがないように、申請者には、認定結果通知送付後の介護計画の作成依頼状況を文書や電話等で確認するとともに、介護支援事業者等に対しては、計画の作成状況を確認して、迷惑のことがないよう対応していきたい。

区画整理事業

質問 桐生駅周辺区画整理事業は、昭和六十年に事業が開始され、現在も引き続き行われているが、その間に、対象区域の人口は大きく減少してしまった。区画整理事業は巨額な経費を投入する事業であり、人口増につながる施策が必要ではないか。

答弁 桐生駅周辺の立地条件の良さを生かし、民間賃貸住宅の建設促進を図ると同時に、特定優良賃貸住宅や借り上げ公営住宅等の公的制度的利用を案内し、人口増につながるよう努力していきたい。



完成したJR桐生駅の北回駅前広場

保健福祉部の受付

質問 保健福祉部を訪れる人の多くは高齢者であり、来訪者が座って相談できるように配慮すべきである。現在でも、受付の一部は座って対応できるように配慮されているが、市民に優しい行政という面から、市民課と同様に、来訪者全員が座って相談できるようにできないか。

答弁 将来的には来訪者全員が座って相談できるようにという方向で、改善に努めていきたい。



来訪者が座って相談できる受付

外国語の乱用

質問 外国語（カタカナ語）の乱用については、以前にも質問しているが、現在策定中の第四次総合計画案等を見ると、まだ必要な外国語が使われている。日本人として、日本語を使用すべきと考えるがどうか。

答弁 市民にわかりやすい内容とするため、日本語で適切に表現できる言葉は、日本語の表記に努めたいが、日常生活に定着して一般的になっている言葉は、無理に日本語にするとかえって分かりにくくなるため、そのまま使用する場合もある。



みんなが元気なまちづくりを目指す

元気なまちづくり

質問 大澤市長は「元気なまちづくり」を提唱しているが、その基本的な政策がどのようなものか聞きたい。

答弁 桐生市が二十一世紀を元気に歩むためには、産業、文化、観光等様々な分野における人間の交流が重要と考えており、「交流」そして「市民参画」「ボランティア活動」を中心に据えて、桐生のまちづくりを進めていきたい。

桐生市障害者計画

質問 先日、桐生市障害者計画が策定されたわけだが、同計画に基づいて、障害者の社会参加や自立を促進させる事業として、

どのようなことを考えているか。

答弁 桐生市障害者計画は、すべての人が互いに理解しあい、助けあえる平等な社会を築くことを目指しており、新年度事業として重度身体障害者移動支援事業、福祉タクシー料金助成事業、心身障害児集団活動・訓練事業等を実施する。今後、同計画に基づき諸施策を推進し、障害者の社会参加のために基盤づくりをしていきたい。

であい相談

質問 社会福祉協議会で、福祉事業の一環として、結婚相手にめぐり会う機会が少ない男女に、出会いの場を提供するため「であい相談」を開設しているが、同事業の現況はどうなっているか。

答弁 現在の登録者は、男性五十二人、女性十九人で、女性登録者の確率が課題と聞いている。また、同事業の一環として、出会いの集いを開催しており、本年度は三十三人が参加したとのことである。



サッカー大会でにぎわうユーユー広場

ユーユー広場の砂塵

質問 ユーユー広場の砂塵防止策については、

以前にも質問したが、現在でも、砂塵に対する利用者の苦情は絶えることがない。錦桜橋下の河川敷サッカー場で行った芝生工事による対策を、ユーユー広場にも採用できないか。

答弁 芝種子時き付け工事期間と養生期間を含めて、使用が一年あまり不可能となり、計画されている各種大会等を消化することができなくなる等の問題が生じるため、今後、適切な方法を研究していきたい。

道路の舗装と掘り返し

質問 道路の舗装とその直後の掘り返しは、市民から税金の無駄づかいの典型として指摘されている。道路の舗装と上下水道ガス管、電線等の敷設計画との整合性については、どのように調整しているのか。



計画的に行われている道路工事

めており、今後も市民から指摘を受けることがないよう対処したい。

質問

今の子どもたちは、その多くが何らかのアレルギー性疾患を持っており、子どものアレルギー対策は重要な課題であるが、桐生市では、学校給食の改善のほかに、どのような対策を行っているか。

答弁

アレルギーの予防教育として、母子健康手帳交付時、ママ・パパ教室、離乳食講習会等において、清潔な住環境に心掛ける等の指導を行っている。また、乳幼児健診では、診察結果に応じて医療機関への受診をすすめている。

子どものアレルギー対策

広域合併

質問 広域合併について、大澤市長は慎重に对应すべきと言ったが、私は異を唱えたい。今日の自治体は高齢化など様々な問題を抱えており、今のままでは小さい自治体は存続できない。広域合併には必然性があると思いがどうか。

答弁 地方分権一括法には財政的な裏付けがなく、これでは合併は推進されない。また、桐生広域が合併しても、人口三十万以上の中核市には及ばず、

小中学校の適正配置

質問 小中学校の適正配置に関しては、同検討委員会から、結論は時期尚早との答申が出されたが、これで本当によいのか。

あまり効果がない。現在は、広域行政を積極的に推進しており、桐生市が中心都市として責任を果たしていく中で、次第に合併の土壤ができるものと考えている。合併反対ではなく、慎重に大事にやっていきたい。

答弁

今後、教育行政の大変革が予想されるため、動向を見極めてから方策を検討すべきとの考えに立ち、時期尚早との結論を出したとのことである。



元気いっぱいの子どもたち

競艇場施設借上料

質問 現在、競艇事業において、施設会社に入

入る施設借上料は、桐生市に入る金額よりも多いが、これではおかしい。せめて現在の施設借上料率五・五パーセントを四・五パーセントに引き下げるべきである。また、借上料等の実態は、広報等で市民に知らせるべきである。

質問 施設借上料の引き下げ交渉については、諸経費の見直し等も含めて積極的に取り組みたい。現

在、内容を精査しており、しかるべき時に、広報等で市民に周知したい。

桐生市地名考

質問 このたび、島田一郎氏がまとめた「桐生市地名考」が、桐生市立図書館から発行された。これは桐生市から全国に発信する貴重な情報であるが、すでに売り切れとなり、購入できずに困っている人がたくさんいる。再発行すべきではないか。

質問 少ない予算の中で仕事を始めたため、皆さんに迷惑をかけてしまったが、早急に増刷の方向で関係部局と調整したいと考えている。



質問 少ない予算の中で仕事を始めたため、皆さんに迷惑をかけてしまったが、早急に増刷の方向で関係部局と調整したいと考えている。

桐生市の高齢化

質問 現在、桐生市では急速に高齢化が進行しているが、五年後、十年後の六十五歳以上の人口予測と老人医療費の推計について聞きたい。

質問 コーホート要因法によると、六十五歳以上人口は、五年後は二万八千人、十年後は三万一千人と推計される。老人医療費は全国的にも年々増加しており、桐生市でも増加傾向が続くと見込まれる。

質問 現在の状況から、五年後、十年後の六十五歳以上の人口予測と老人医療費の推計について聞きたい。

商店街の空き店舗活用

質問 商店街の空き店舗等の活用方法として、行政が空き店舗等を借りあげ、全国からベンチャー企業を募集し、無料で貸し出すことはできないか。ベンチャー企業にはリスクもあるが、大きな経済効果が期待できると思うがどうか。



集客に努力する商店街

質問 提案の趣旨は十分理解できるものであり、「まちの中に大学があり、大学の中にまちがある推進協議会」におけるベンチャー企業育成支援施策の推進と、「桐生市商店街づくり総合支援事業」における空き店舗活用支援事業の促進とともに、将来的な課題として受けとめたい。

渡良瀬川の河川緑地整備

質問 渡良瀬川の河川緑地整備については、市民から、桐生市は足利市に比べて遅れているとの声を聞くが、最近では、小梅琴平公園、松原橋公園等、かなり整備されてきている。現在の進捗状況及び完成予定はどのようになっているか。



整備された小梅琴平公園

質問 昭和五十七年二月に、上電の赤岩鉄橋から広沢町七丁目までの河川敷を河川緑地として都市計画決定し、順次整備を進

めている。平成十一年度末の進捗率は約六十五パーセントで、平成二十年を目途に完了したい。

街路樹の管理

質問 桐生市内には、約三十八千口におよぶ街路樹が整備され、市街地緑化に大きな役割を果たしているが、年間の維持管理費はどの程度なのか。また、街路樹の根が路面を持ち上げ、デコボコになる場合があるが、それが原因で事故が起きたことはあるか。

質問 維持管理費の予算額は、平成十一年度が二千九十一万六千円、十二年度が二千二百四十万円である。根の盛り上がりや原因の事故は起きていないか。

教育制度改革

質問 平成十四年度から、新学習指導要領に基づく新しい学校教育がスタートするが、この教育制度



桐生の未来を担う子どもたち

改革への対応をどのように考えているか。また、この改革により、教員は、資質能力のさらなる向上が求められると思うがどうか。

質問 各学校において、すでに今年度から計画的に準備を始めており、「総合的な学習の時間」等にも取り組んでいる。また、校長会等での指導、各種研修会等への参加などを通じて、教員の資質、能力の向上を図っていききたい。

新川のせせらぎ

質問 山紫水明な桐生の景観として、かつて渡良瀬川と桐生川を結んで町中を流れていた、新川のせせらぎを懐かしむ人が多い。将来的には、新川のせせらぎを再生すべきと考えられているがどうか。

質問 新川の復活を図ることは、豊かで魅力的な都市環境を創出するうえで重要と認識しており、今後、現在策定中の「緑の基本計画」の中でも位置づけを行い、計画の具現化に向けて努力したい。

三つの改善と 総合計画

質問 桐生市は、財政の健全化の達成度合をはかる財政指標である、經常収支比率、公債費比率、財政力指数の三つの指標について改善を図るといいますが、この三つの改善と総合計画との整合性はどうか。

答弁 十年という長期間の財政には様々な変化要素があり、正確な財政フレームを構築するのは困難であるが、財政フレームを構築した上で総合計画と

整合させることは重要と考えており、今後、審議会等で示したいと考えている

高齢者の自己実現

質問 一九九一年、国連は「高齢者のための国連原則」を採択し、その中で、高齢者は、自己実現のために文化的、娯乐的資源等を利用できなければならないとしているが、桐生市では、高齢者のスポーツ、文化活動等への援助、助成をどう考えているか。

答弁 高齢者のスポーツ文化活動等は、各人が老人クラブに加入し、活動されていることから、老人クラブ等に毎年補助金を支出しており、今後も必要に応じて継続していきたい。



スポーツを楽しむ皆さん

介護保険制度

質問 現在の介護保険制度では、国民は何歳になっても保険料を払わなければならないが、これでは敬老の精神に反する。桐生市の単独事業で、九十歳以上の高齢者の保険料を免除する考えはないか。

答弁 趣旨は理解できるが、現在の制度では、特定の年齢層のみ保険料を減免することは原則的に認められていないため難しい。制度のしくみに関わる問題でもあり、国の動向を注意

深く見守りたい。



桐生競艇場

桐生競艇の 専用場外発売所

質問 桐生市の新たな財源を求めるとすれば、

桐生競艇の専用場外発売所建設しかないと考えているが、青森県南部町等へ進出する可能性はないのか。また、競艇場の施設借上料の引き下げについては、どのように取り組むのか。

答弁 南部町に進出した場合には、かなりの赤字が予想される。危険な進出を選択するよりも、施設借上料の引き下げ等に努力したい。現在の施設借上料率五・五パーセントはたいへん高い率であり、一パーセントの引き下げに取り組みたい。

中心市街地 活性化対策

質問 中心市街地活性化対策については、特定商業集積整備事業等により、商店街活性化に巨額の投資をしているが、その成果をどう評価しているか。産学官連携による「中心市街地活性化対策懇談会」を設立し、共同研究すべきと考えられているか。

答弁 「トポス」「ジョイイタウン」等は商店街の核として活用が図られており、昨今の厳しい経済



商店街活性化の核となる「トポス」

環境の中で、成果が直ちに現れることは難しいが、今後とも適切な事業指導等に努めたい。中心市街地活性化対策懇談会については、今後、検討していきたい。

リバース・モゲージ 制度

質問 リバース・モゲージ制度は、不動産を担保に、老後の生活資金を年金方式で融資する制度で、全国で十六の自治体を実施しているが、桐生市で導入する考えはあるか。

答弁 老後の経済基盤を確保しながら、住み慣れた地域や愛着ある家で暮らしたいと願う高齢者の気持ちにこたえられる方策と思われる。今後、総合的に研究、検討していきたい。

お知らせ

次回定例会の開会予定は

6月5日(月)です。



本会議を傍聴する皆さん

市議会だよりは、紙面の都合で発言の一部(要旨)を掲載しています。詳しくは、図書館で会議録をご覧ください。

なお、平成12年第1回定例会の会議録は6月上旬からご覧になれます。

12年度 予算を可決

平成12年度の一般会計予算及び水道事業会計予算は、それぞれ賛成多数で原案のとおり可決しました。10事業の特別会計予算については、交通災害共済事業特別会計予算は全員賛成で原案のとおり可決し、その他の9特別会計予算は賛成多数で原案のとおり可決しました。

なお、平成12年度予算を可決するにあたっては、各会派代表の議員（5人）が総括質疑を行うとともに、予算特別委員会（委員14人で構成）を設置し、2日間にわたり、慎重に審査を行いました。

総括質疑における、主な質疑に対する市当局の答弁は、次のとおりです。

市政方針

市政方針の重点施策は何か

答弁

北関東自動車道へのアクセス道路を中心とする都市基盤整備、群馬大学工学部との連携による産業の活性化、ボランティア・NPO活動の支援による市民と行政の協働などは、特に力を注ぐべき事業と考えている。

地方分権

地方分権をどのように推進するのか

答弁

地方分権一括法が制定され、自治体の自己決定、自己責任の拡大が図られたが、これは行政と市民が責任をともに担うことが大前提であり、市民への情報提供を積極的にを行い、市民の声を行政に反映できるように努力したい。

北関東自動車道のアクセス

北関東自動車道のアクセス道路への取り組みは

答弁

アクセス道路の整備は、重要かつ不可欠な課題と考えており、昨年十月、大規模プロジェクト対策室を設置、さらに十二月には、桐生広域圏幹線道路網等検討委員会を組織

し、調査・研究している。

ボランティア

森林・清流ボランティアの活動内容は

答弁

桐生市には、桐生川源流域に代表され



桐生川の清掃作業風景

る豊かな自然があり、森林や清流を保全するために、森林の下草刈・間伐、川の清掃等の活動を行うもので、暖かいまちづくりの一助にもなると考えている。

ごみ分別収集

新たなごみ分別収集の市民への周知はどうか

答弁

本年四月からペットボトル等五品目を新たに分別収集するが、広報きりゅうへの掲載、リサイクル展の開催、チラシの隣組回覧等により、市民にお知らせしている。今後、ごみカレンダーの配付等により周知の徹底を図り、円滑な分別収集に努めたい。

商店街

商店街づくり総合支援事業とは

答弁

商店街団体等が行う、空き店舗活用事業、空き地活用事業、歩きたくなる街並整備事業に対し、県と連携し、空き店舗改装費や賃借料、施設整備

費の一部を補助する事業であり、商店街の活性化につながるものと期待している。

配食サービス

配食サービス事業とは

答弁

調理が十分にできない高齢者等に対し、食事を定期的に訪問配食するとともに、高齢者の健康異常の早期発見、孤独感の解消等を図ることを目的としている。利用者は百七十人程度で週一回の配食とし、利用負担は三百円程度を予定している。

介護保険

介護保険料等の低所得者への減免をどう考えるか

答弁

介護保険料については、四月一日に介護保険制度がスタート後、第一号被保険者の保険料は半年間は徴収せず、その後も、一年間は半額を徴収することにしている。保険料、利用料は、それぞれに制度上の措置が図られており、市独自で低所得者への減免を行うことは難しい。

一般会計予算 に対する討論 (要旨)

賛成

財政健全化を推進しながらも、元気の出るまちづくり、そして、今打っておかなければならない布石は打つとの考えに立ち、北関東自動車道へのアクセス道路を中心とする都市基盤整備、群大工学部を核とした産・学・官の連携による産業の活性化、ボランティア活動等の支援による市民と行政の協働の3つをまちづくりの柱に予算編成を行い、さらに、いわゆるハコモノ建設を最小限に抑制し、ソフト事業を中心に考えており、その取り組みを評価し、諸施策の成果に期待するものである。

反対

個人消費が冷え込み、日本のGDP（国内総生産）がマイナス成長となる状況において、桐生市でも市税等の収入が大幅に減少しており、同予算案も圧縮されたものとなっている。地方交付税の引き上げ、消費税率を3パーセントに戻すこと等を政府に要求すべきである。そのほかにも、介護保険料の1年間の凍結と施設整備、30人以下学級等の実現についても強く求めるものである。

主な議案

行政連絡所に関する議案

桐生市行政連絡所設置に関する条例
原案可決（全員賛成）

概要

行政事務の円滑な運営を図り、市民の利便性向上のため、行政連絡所を六か所の公民館内に設置するもの。これは、平成十一年六月から規則により公民館で対応していた出張所機能を条例で定めるもの。

条例施行日
平成十二年四月一日



公民館の受付風景

文化センターに関する議案

桐生市文化センターの設置及び管理に関する条例を廃止する条例
原案可決（全員賛成）

概要

「桐生市文化センター」という名称が「桐生市民文化会館」と混同しやすいため、同センターの設置及び管理に関する条例を廃止し、「文化センター」という名称を廃止するもの。なお、同センターの管理は中央公民館に移管される。

条例施行日

平成十二年四月一日

議案の提出要件等に関する議案

桐生市議会会議規則の一部を改正する規則
原案可決（全員賛成）

概要

議員発議により提出された議案で、議員による議案の提出要件の緩和と、点字による請願書の提出ができるように改正し、あわせて語句の整備を行うもの。

規則施行日

平成十二年四月一日

人事案件

市議会は人事案件一件に同意しました。

人権擁護委員

吉田正彰氏
(再任)

意見書等

この定例会では、意見書案及び決議案の提出はありませんでした。

全員協議会

市議会は、3月3日に全員協議会を開催し、市当局から、介護保険について、及び競艇専用場外発売場の経過について報告を受けました。

請願・陳情の審査結果

この定例会では、請願15件の審査を行い、採択及び不採択となった請願は次のとおりです。なお、請願13件は閉会中の継続審査となりました。陳情の審査はありませんでした。

件名	結果
第3号 米の投げ売り強要をやめ、食料自給率引き上げを求める請願	不採択 (賛成多数)
第6号 在宅高齢者保健福祉推進支援事業の推進に関する請願	採択 (全員賛成)

第一回 臨時会

平成十二年第一回臨時会は、四月二十五日に招集され、一日間の会期で開かれました。

この臨時会では、議長の選挙が行われ、新議長に川嶋伸行氏が選出されました。また、市長提出議案の平成十二年度桐生市一般会計補正予算(第一号)及び専決処分三件の審議を行い、それぞれ原案のとおり可決、承認しました。